

挑め、上越。



Joetsu Challenger's INTERVIEW

上越チャレンジ インタビュー

#005 山の暮らしに、誇りと愛着を。

上越市牧区高尾は千岁以上も続く集落で、平家の落人が住んでいたともいわれる。市街地から車で約40分。山道を進むと、本当に先に集落があるのだろうかと不安になるほど山深い。高尾には北原白秋作詞の校歌が響く学校もあったという。いま、山の暮らしを営みながら高尾で生まれた植木美奈さんが2年前に始めた「高尾お茶のみ散歩」が静かな人気を呼んでいる。

この家は私の実家です。結婚して高田に住んでいましたが、子どもが生まれたときに、いざなは山で子育てしようと思と夫と話していくました。そんな折両親が高尾から車で10分の柳島集落に移って姉たちと住むことになりました。私は自然が好きで、小さなところからよく山の中で遊んでいました。悩みや困ったことがあると山を歩きながら考えることでいつも答えを出せました。山にいると気持ちがいいし、山の暮らしが好きだったから、ここでのびのびと子育てできる日々をとても気に入っています。

私が小さかつたころは50~60軒あつた集落も今は通年で住んでるのは23軒で、小学生以下の子どもはいません。学校は、家から近くの停留所からバスに乗って10分のところにあります。山奥で雪も降りますが、町の職場へ通うこともできます。山道を走るあいだに仕事のオンとオフの切り替えができる、大変さよりも気持ちのリセットができるメリットの方が大きいです。インターネットがあるので、欲しいものは手に入り、情報も入ってきます。山の暮らしには、隣同士のおつきあいや集落のつながりがあります。コミュニケーションがとりやすいです。民家を解放する「高尾お茶のみ散歩」に町から来る人もたくさんの人々に会えてお話をできるから来る」と言います。(笑)生活は不便に見えるかも知れないけれど、心の不自由さがないので

この家は私の実家です。結婚して高田に住んでいましたが、子どもが生まれたときに、いざなは山で子育てしようと思と夫と話していくました。そんな折両親が高尾から車で10分の柳島集落に移って姉たちと住むことになりました。私は自然が好きで、小さなところからよく山の中で遊んでいました。悩みや困ったことがあると山を歩きながら考えることでいつも答えを出せました。山にいると気持ちがいいし、山の暮らしが好きだったから、ここでのびのびと子育てできる日々をとても気に入っています。

集落の空き家がどんどん壊されていき、人が減るばかりに「私たちにできることはなにかしら」と。そんなときに、テレビで静岡の「縁側カフェ」という取り組みを観て、「これだ! これなら私たちにもできる」と思いました。移住者を呼びたいけれど、この集落を知つてもらわなければ移住を考える人はいない。だから、この集落を知つてもらうためのお見合いで雪も降りますが、町の職場へ通うこともできます。山道を走るあいだに仕事のオンとオフの切り替えができる、大変さよりも気持ちのリセットができるメリットの方が大きいです。インターネットがあるので、欲しいものは手に入り、情報も入ってきます。山の暮らしには、隣同士のおつきあいや集落のつながりがあります。コミュニケーションがとりやすいです。民家を解放する「高尾お茶のみ散歩」に町から来る人もたくさんの人々に会えてお話をできるから来る」と言います。(笑)生活は不便に見えるかも知れないけれど、心の不自由さがないので

この家は私の実家です。結婚して高田に住んでいましたが、子どもが生まれたときに、いざなは山で子育てしようと思と夫と話していくました。そんな折両親が高尾から車で10分の柳島集落に移って姉たちと住むことになりました。私は自然が好きで、小さなところからよく山の中で遊んでいました。悩みや困ったことがあると山を歩きながら考えることでいつも答えを出せました。山にいると気持ちがいいし、山の暮らしが好きだったから、ここでのびのびと子育てできる日々をとても気に入っています。

木明美さんとよく話を

木明美さんとよく話を